

研究テーマ	発想し構想する能力を育てる授業の工夫 ～アイデアスケッチの活用を通して～
-------	---

那珂市立第四中学校 教諭 栗田 元美

I 研究テーマについて

どのような作品を制作するにあたって、発想し構想する能力は必要である。しかし、本校の生徒は発想・構想の段階でつまずきを覚える生徒が多い。作品を制作することが嫌いな生徒は少ないが、作品を発想し構想することに苦手意識がある生徒は少なくはない。そのため、本校の生徒はアイデアスケッチの段階でつまずき、題材そのものが苦手な物であると感じる生徒や、作品を発想していくためのアイデアスケッチの活用方法がわからず、アイデアスケッチが白紙に近い状態になってしまう生徒がいた。つまずいた生徒の感想を読むと、発想・構想を一段階でのみ提示してしまっているために、一度に考える事項が多く頭が整理できていない様子であった。また、発想の引き出しが少ない生徒が多く、1つのアプローチの仕方しかできず、アイデアが浮かばない場合、違うアプローチの仕方がなくつまずいてしまう生徒がいた。そこで、作品を制作するためのアイデアスケッチを段階的に取り入れることで、一つのことに集中して考えることができ頭の中を整理しやすくなるのではないかと考えた。また、自分の発想の広がり振り返ることがしやすくなり、段階を踏んだ発想により自分の作品が成長していくようすを感じ取りやすくなり、段階を踏んだ発想によって作品が作り上げられていくことが感じられるのではないかと期待した。段階的なアイデアスケッチの他にも、様々な発想のアプローチの仕方を練習することで、行き詰まった時に別のアプローチを自分自身で考えてできるようになるのではないかと期待した。つまり、アイデアスケッチを活用することで発想の引き出しを多く作り、発想し構想する能力が高まるのではないかと考え、このテーマに設定した。



II 研究の実際

1 題材名

Smile Note ～自分たちの使うノートをデザインしよう～ (第2学年)

2 題材の目標

- デザインに関心をもち、学校を象徴するノートの表紙づくりに主体的に取り組むことができる。
(美術への関心・意欲・態度)
- 学校を象徴するノートの表紙を様々な方法で豊かに発想・構想を練り上げ独創的に表現することができる。
(発想や構想の能力)
- アクリルガッシュの特性を生かし自分のイメージをもちながら表現の工夫をするなどして、創造的に表現することができる。
(創造的な技能)
- デザインのおもしろさを感じると共に、いろいろな作品のよさを感じ取ることができる。
(鑑賞の能力)

3 題材について

本題材では、発想・構想の引き出しを増やすために、作品の制作に入る前に、段階的にアイデアスケッチを行い、そのなかで五感を使ったアイデアスケッチを行うこととした。以下は、段階的なアイデアスケッチと五感を使ったアイデアスケッチについてである。

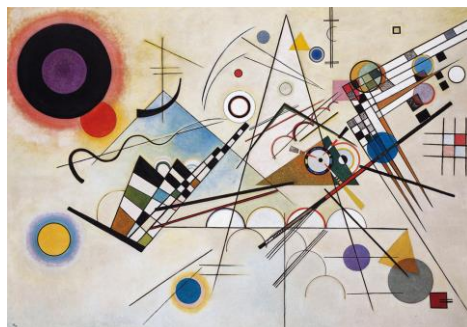
(1) 段階的なアイデアスケッチ

見た物をそのまま描き写すことや、写実的な表現が得意な生徒が多い学年であるが、自分の感情のように見えない物を表現することが苦手な生徒が多く、発想の段階でつまずき作品制作の時間が大幅に減ってしまうことが昨年度多かった。また、自分をテーマに作品を作ることに抵抗感が高く、作品制作を積極的に行えない生徒が見られた。まず、生徒の興味・関心を高めるために、今年度本校独自に作られた生活記録ノート（Smile Note）の表紙裏表紙のデザインを題材として選んだ。アイデアを小刻みに発想していくために、資料1のような5段階のワークシートを作った。

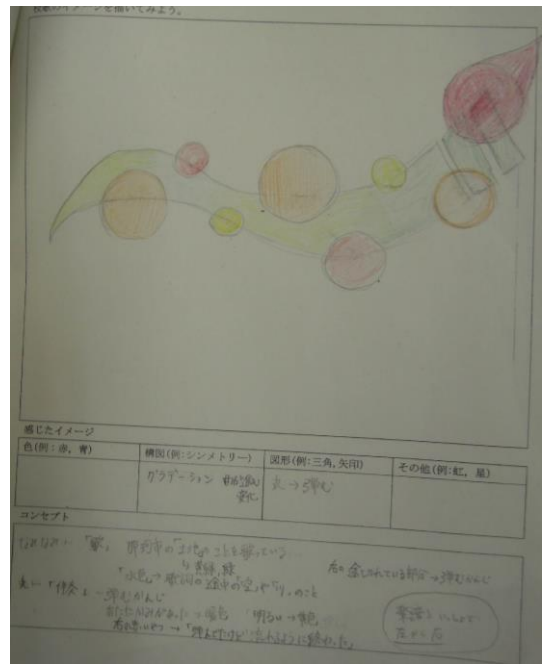
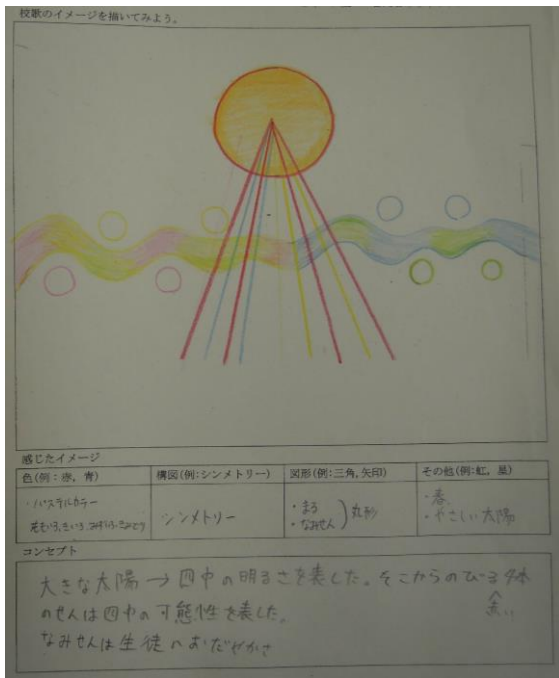
段階	目的	提示した課題
1	他者のイメージを取り入れる	那珂四のイメージを共有しよう。
2	最後との比較のためのスケッチ	Smile Note のイメージを描いてみよう。
3	聴覚を使った表現	那珂四中の校歌を絵で表してみよう。
4	文字の形から想像を膨らませる	Smile Note の文字をデザインしてみよう。
5	本制作のためのアイデアスケッチ	Smile Note を注文票にそってデザインしてみよう。

(2) 五感を使ったアイデアスケッチ

昨年度、作品を作る際にウェビングマップ等の言葉でイメージを膨らませることをしたが、言葉からのみの発想では苦手な生徒が多かった。そして、参考作品を見ても、どのように自分の作品に生かせばいいのか戸惑う様子が見られた。そのため、言葉のみで発想や参考作品を鑑賞してからのアイデアスケッチだけではなく、五感を使ったアイデアスケッチに取り組みさせた。聴覚を使ったアイデアスケッチでは、本校の校歌を題材に選びアイデアスケッチに取り組みさせた。



カンディンスキーの作品を鑑賞し,そこから学んだ抽象的な表現をつかい校歌を描くことに挑戦をした。



五感を使ったアイデアスケッチで実際に生徒が描いた作品↑

4 題材の評価基準

美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
様々な表現の仕方に関心を持ち,積極的により自分に合った表現方法をする。	様々な方法を使い豊に発想をし,アイデアスケッチを活用することができる。	自分が描いたアイデアを生かし,スケッチ通りに表現することができる。	友達の作品の良さや工夫を鑑賞することができる。

5 指導と評価の計画

時間	学習課題・活動	評価基準・【評価方法】
第1次 ①	導入 —学校のイメージを言葉で表そう— ・ 題材の確認。 ・ 題材の流れの説明。 ・ 那珂四中のイメージを言葉で考える。	・ 作品のテーマについて興味をもち,さまざまな表現方法に関心を持つことができる。 関【観察・ワークシート】
第2次 ①	アイデアスケッチ① —聴覚を使おう— ・ カンディンスキーの絵の説明をきく。 ・ 校歌を聴き,言葉でイメージを表す。 ・ 校歌のイメージを絵で表現する。	・ 校歌を聴いて,その音からイメージしたことを色や形を使い表現することができる。 想【観察,ワークシート】
第3次 ①	アイデアスケッチ② —文字から感じよう— ・ Smile Note の文字からイメージをする。	・ 文字を自分なり表現で描くことができる。 想【観察,ワークシート】

	<ul style="list-style-type: none"> 様々な書体をみて,自分なりの文字の形を考える。 	
第4次 ②	<p>アイデアスケッチ③ —アイデアをまとめる—</p> <ul style="list-style-type: none"> 今までのアイデアスケッチをもとに表紙のデザインを構成する。 	<ul style="list-style-type: none"> アイデアスケッチを活用し,ノートの表紙のデザインの構想を練ることができる。 想【観察,ワークシート】
第5次 ⑧	<p>着色 —丁寧にアクリルガッシュで着色しよう—</p> <ul style="list-style-type: none"> アクリルガッシュの使い方を確認する。 着色計画に沿って着色をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 丁寧にアクリルガッシュを使い描くことができる。 技【観察,作品】
第6次 ①	<p>鑑賞 —友達作品を鑑賞する—</p> <ul style="list-style-type: none"> 友達作品を鑑賞しよう。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達作品のよさや美しさ,意図や表現の工夫を感じ取り,作品への関心を深めることができる。 鑑【観察,ワークシート】

III 成果と課題

1 本題材での課題と成果

(1) 段階的なアイデアスケッチ

段階的に発想をしていくことで,つまづきを覚える生徒が少なくなった。また,作品がいつもより満足な出来であると感じている生徒が多く,作品に対して愛着をもち終始丁寧に作品制作をしていた。作品を制作する際に,ただそのままスケッチを作品に写し,着色していただくだけではなく,アイデアスケッチを振り返りながら工夫して制作する様子が見られ,アイデアスケッチを自分にあった方法で活用している生徒が増えた。

課題としては,アイデアスケッチを段階的に取り組んだことで,アイデアスケッチに時間がかかってしまい,1つの題材にとっても時間がかかってしまった。発想を深めるためにも,簡単に作れる題材で発想の練習を重ねていき,自分の中で順序立てて発想し構想していけるように取り組ませていきたい。

(2) 五感を使ったアイデアスケッチ

最終的なアイデアスケッチを考える際に,自分の今までのアイデアスケッチを振り返り取り入れる姿がみられ,今までにないアイデアを出せたと満足な生徒が多かった。描くことに自信のなかった生徒も,抽象的な表現を発想することができ,満足している様子が伺えた。

聴覚を使ったアイデアスケッチで,生徒がなじみやすいようにと校歌を使ったが,校歌の歌詞についてのスケッチになってしまう生徒が多くメロディーやリズムを表現に取り入れられなかった生徒もいたため,歌詞のない音楽で発想をさせることにも挑戦させることで,さらに発想に膨らみがあったのではないかと感じた。また,今回の題材は用紙をこちらで決めてしまっていたが,触覚という部分で生徒自身何種類かある素材から選ばせることをしても良かったのではないかと感じた。次回の題材では触覚を使いアイデアスケッチに取り組ませたい。

(3) その他

聴覚を使ったアイデアスケッチを行った後に、鑑賞の授業を行ったところ、作品からどのような音が聞こえてくるのか、色から感じ取れる作者の感情などに以前に比べて強い関心を持ち考え、言葉で書き記すようになった。以前では写実的ではないからよく分からないと、抽象的な作品に興味をもっていなかった生徒も積極的に鑑賞しており、作品の見方にも影響が出てきていた。

2 平成 27 年度の生徒の様子からの成果と課題

(1) 現在の様子

表紙のデザインを実践した学年の生徒は、次の課題でアイデアが浮かばずに固まる生徒がほとんどいなくなった。固まった生徒に対しては、段階的なアイデアスケッチや五感を使ったアイデアスケッチのことを例に挙げたところ、すんなりと描くことができた生徒が多かった。

また、作品を作るときに丁寧な手つきになった生徒が多かった。授業後のアンケートでも、アイデアが全く出なくて困っているという意見が減り、「次は～を作りたい！」とう前向きな回答が増えた。

(2) 五感を使ったアイデアスケッチの他学年での実践

本題材では、校歌を使いアイデアスケッチを行ったため、歌詞のイメージから抜けきれない生徒が多くいたため。抽象的な表現を苦手とする生徒が多い学年で、カンディンスキーの作品を鑑賞し歌詞のない、和楽器音楽を聴かせ五感を使ったスケッチを行った。

① 題材の指導計画(2 時間扱い)

時間	学習課題・活動	評価基準・【評価方法】
第 1 次	視覚から聴覚へ 一音を目に表そう— ・ カンディンスキーの作品を鑑賞する。 ・ 吉田兄弟の『彩雲』を聴き自分なりに表現する。	・ 自分なりに色や形を工夫して音楽を絵に表現することができる。 想【観察,作品】
第 2 次	視覚から聴覚へ 一言で表現しよう— ・ 自分の作品の天地を決める。 ・ 作品の解説を書く。 ・ 友達の作品を鑑賞する。	・ 友達の作品に込められた工夫を感じ取り,作品への関心を深めることができる。 鑑【観察,作品】

② 課題と成果

積極的にコンパスや定規を使い、抽象的な表現に果敢に挑む姿がみられた。実際に描いた後の感想をみてみると、今まで絵が苦手であった生徒が自信をもっている様子が伺えた。また、自分の作品や他者の作品の説明や感想で、共通事項の言葉を使い表現することが出来る生徒が多くみられ、自分が感じた事を言葉で表す事への戸惑いも減ったよう

であった。

五感を使ったアイデアスケッチを行った後、別の作品を使い行った鑑賞では、色や形から感じる心理的なイメージの他にも、作品の中から感じる音について触れる鑑賞をする生徒が現れ、多方面からの鑑賞を積極的に行う姿が多くみられた。

授業後のアンケートでは、抽象表現が得意で回答している生徒が3割ほど増えた。



音楽を聴いた生徒の作品↑

(3) 今後について

発想や構想の能力の向上を中心に授業を進めてきたが、発想や構想の能力が少しずつ向上するに従い、授業への関心の高まりや鑑賞に対する興味が深まったと感じた。また、共通事項を使って表現する生徒が増えた。

今後も、様々な方向からの発想を引き出すことで、より豊かな自己表現の方法をみつけて欲しいと考える。五感を使ったアイデアスケッチでは、主に聴覚を中心に行ってきたが、今年度は触覚と味覚を使ったアイデアスケッチを行う予定である。